

ティーチング・ポートフォリオ

2019



島袋道浩《二度起こること一象の話し》(2001年～) 2016年7月17日(日) 佐賀市内
美術家・島袋道浩(1968～)によるアートプロジェクトを佐賀大学生および地域の高校生が体験。
江戸期に長崎から江戸まで白象が歩いた史実に基づき、佐賀大学から願正寺までの長崎街道沿いを
白象とともに散歩しました。「二度起こること」とは何でしょうか。

花田伸一

キュレーター／佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授

第5回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
2019年3月7日(木)～9日(土) マイクロソフトイノベーションセンター佐賀

■0. これまでの経歴	3
■1. 教育の責任	3
1-1. 学内カリキュラム (学部)	3
1-2. 学内カリキュラム (大学院)	4
1-3. ゼミ生プログラム (学部・大学院)	4
■2. 教育の理念	4
2-1. 芸術を通して一人ひとりが「生きる実感」を持てる社会を作る	4
2-2. 様々な「自分らしさ」のあり方を守り、促す社会を作る	5
2-3. 芸術文化が続いていく仕組みを考え、促す社会を作る	5
■3. 教育の方法	6
3-1. 学生の興味・関心重視	6
3-2. 言語化・記録重視	6
3-3. 対話重視	7
3-4. 現場重視	7
■4. 教育の成果	7
4-1. ゼミ活動：H-semi	7
4-2. ゼミ活動：CASASAGA	9
4-3. その他：大学カリキュラムでの活動	10
4-4. その他：自主活動	11
■5. 今後の目標	12
5-1. 短期目標	12
5-2. 長期目標	12
■6. 添付資料	13

■ 0. これまでの経歴

私の仕事はキュレーターです。キュレーターとは**美術展やアートプロジェクトの企画運営を行う専門家**です。私は大学で美術史を学んだ後、**公立美術館学芸員として11年間**勤め、その後**フリーランスのキュレーターとして9年間**活動してきました。美術館やギャラリーでの展示はもちろん、**地域で行われる美術展やアートプロジェクトの企画**にも数多く携わってきました。

その経験が買われ、佐賀大学が2016年に開設した「芸術地域デザイン学部」の教員となりました。「芸術」と「地域」を結ぶ人を育成するという国内でも極めてユニークなこの学部にて、私がこれまで現場で培ってきた**キュレーターとしての実務経験をふまえ、国内外で活躍できる人材を数多く育成**していきたいと思っています。また私は大学に所属する一方、今でも現役のキュレーターとして各所の企画に携わっていることから、学生たちに**現場での実践的な学びの機会を積極的に提供**したいと考えています。

■ 1. 教育の責任

学校教育…佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコースの教員としてキュレーションやアートマネジメントに関する科目を担当します。

社会教育…キュレーターとして地域での美術展やアートプロジェクトの企画・運営・監修、原稿執筆、講演会等を行います。

1-1. 学内カリキュラム (学部)

大学入門科目	講義 必修	1年	110名	新入生用ガイダンス。全体オリエンテーションおよび教員専門分野紹介を担当。
芸術表現基礎・地域デザイン基礎	演習 必修	1年	110名	実技・理論の学生がともに作品制作や地域調査を体験。キュレーション分野では成果物の大学美術館展示指導および同展トーク指導。
アートマネジメント	講義 選択	1年	100名	美術展舞台裏、作品鑑賞・解釈、子供向けプログラム、アートプロジェクト事例ほか。
芸術文化・地域創生論	講義 必修	2年	110名	様々な分野の教員や外部ゲストから地域における芸術活動について事例を紹介。

アートプロデュース論	講義 選択	2年	15名	毎回一つの文献および事例についてグループディスカッション。
キュレーティング応用 II	演習 選択	2年	3～5名	美術館・博物館・資料館等の現地視察や、地域アートプロジェクト実践体験など。
アートプロデュース演習 I	演習 選択	2年	10～15名	実際の助成金申請書を題材に、毎回担当学生1名が自主企画案を発表、学生間で討議。
アートプロデュース演習 II	演習 選択	3年	3～5名	毎回担当学生1名が興味ある主題について研究発表、全員で討議。
地域創生フィールドワーク	演習 必修	3年	10名	学生自主企画の地域アート活動実践。企画立案・実践・記録集作成。

1-2. 学内カリキュラム (大学院)

アートマネジメント・プロデュース特別研究 I・II	演習 選択	院1・2年	5名	毎回担当の学生が興味あるテーマについて文献を準備し、全員で討議。
地域創生キュレーション	演習 選択	院1・2年	5～10名	地域におけるキュレーション実践。学生がグループで自主企画・運営・記録集作成。

1-3. ゼミ生プログラム (学部・大学院)

H-semi	演習	ゼミ生	5～10名	学内研究発表会。ローテーションで毎週5名が、司会者・発表者1・発表者2・記録写真・レビュー執筆を担当。
CASASAGA	演習	ゼミ生	5～10名	地域向けトークイベント実践。佐賀市内の会場で月1回開催。交代で1人の担当学生が企画立案・講師交渉・バイト確保(受付・記録)。

■ 2. 教育の理念

2-1. 芸術を通して一人ひとりが「生きる実感」を持てる社会を作る

人間は遊び・学び・恋愛・仕事など様々な活動を行います。それらは本来、自ら進んでやりたいからやるのが理想の姿でしょう。それら全てが他人によって選択され、強制される社会を想像してみると実に息苦しいものです。自由を奪われ、尊厳を失った人間は果たして「生きている」といえるのでしょうか。現代の私たちの社会を見渡してみてください。私たちは一人ひとりが生きる実感を持ち、自由でいきいきとした「生」を

全うできているでしょうか。

芸術や表現は精神の「遊び」であり、「人間らしさ」の源泉であり、「生きる実感」を取り戻す重要な営みです。芸術や表現に携わる人間は**生命感に溢れ**、その力は**周囲の人間に伝染**し、私たちに**目の輝き**を取り戻させます。

このように社会において芸術および表現活動は**娯楽**（レクリエーション）や**癒し**（リラクゼーション）などの役割を担うばかりでなく、ときに人生の意味を見失いつつある人には宗教に代わる**救い**をもたらすなど、「人間らしさ」を足元から支える礎として AI に代替不可能な活動であり、文字通り人間の「**生命**」の根幹に関わる営みとして欠かせません。

学生たちは本学部において芸術・表現に触れることで一人ひとり目の輝きを増し、そして社会の中で**芸術・表現が担う役割の重要性を認識し、守り、促す**スペシャリストとして地域に出ていきます。

2-2. 様々な「自分らしさ」のあり方を守り、促す社会を作る

本来、**人間や社会のあり方は多様**なものです。様々な価値観が混在する社会において、多数派（マジョリティ）の空気に飲み込まれ、少数派（マイノリティ）が声を上げづらく不当に疎外されるようなことがあってはなりません。

芸術の世界では個性が重視されます。日本社会ではしばしば「人と違う」＝「良くない」こととされますが、芸術の世界では「人と違う」＝「だから良い」こととされます。ここでは多数派であれ少数派であれ**価値観の違いが尊重**され、認め合われます。

自由を重んじ、「人と同じ」ことよりも「人と違う」ことを前提とする芸術の営みは、現代社会のあらゆる場面で進行する**画一化・規格化の傾向に抗い**、社会における**価値観の多様性**を確保していくために今後ますます重要となってくるでしょう。

学生たちは一人ひとりまず自分の「**自分らしさ**」を大切にすることを学びます。その上で他者との対話や実践活動を通じて、自分と異なる価値観も同じように大切にすることを学び、そして**様々な価値観が共存できる社会**のあり方について考え、行動する力を身に着けます。

2-3. 芸術文化が続いていく仕組みを考え、促す社会を作る

かつての高度経済成長期のような終身雇用・年功序列制度は現代においてはもはや幻想

となりました。自分の人生を誰かが守ってくれる時代、自分の人生を他人任せにできる時代は過ぎ去りました。そのような状況のもとでは理想を思い描くだけでなく、**現実**に**行動を起こす力**が必要です。自分の人生を他人任せにすることなく、自らが人生の主役となって物語を紡いでいく力が求められます。

学生たちは本学部において法律や制度、お金のこともふまえた上で、**現場力と知識力**の双方を備え、**経済的な自立**も含め、**自ら行動する力**を身に着けます。社会における**価値の発生と流通**を意識した上で**法の枠組み**や**予算の流れ**を把握し、社会の一人ひとりが「人間らしさ」「自分らしさ」を失わず、かつ**制度的・経済的にも持続可能な社会**を思い描き、その実現に向けて行動していきます。

■ 3. 教育の方法

3-1. 学生の興味・関心重視

キュレーターに求められる資質はつまるところ、「私はこれが良いと思う」と胸を張って対象を選び**自らの価値観を主張**する姿勢と、その対象を「どうですか？」と**社会に投げかけ、対話を促す**姿勢です。

その前提に立ち、文献発表や研究発表に際しての主題や対象の選択は、学生が自身の興味・関心に基づいて行います。求めに応じて教員も助言はしますが、教員一人の価値判断に頼るのではなく、**自身の責任において選択し**、第三者へ発表する経験 = **社会に投げかける経験**を繰り返しながら、**自身の選択対象が社会でどのような位置づけにあるかを常に意識**する姿勢を身に着けます。

3-2. 言語化・記録重視

言語情報と非言語情報の双方を等価に扱える能力を促すべく、スライド・ビデオ・サウンド等の視聴覚メディアを積極的に用い、そこから受ける**感性情報**や**知的情報**を**学生たちが自らの言葉で分析・考察・議論**する場を設けます。

また、研究発表やトーク・ワークショップ等ではそのつど第三者による**レビュー執筆**および**記録写真撮影**を行うことで、コンテンツの要旨を的確に掴む力、その内容を文章で過不足なく他者へと伝える力、写真で現場の情報を効果的に伝える力を身に着けます。

3-3. 対話重視

世界経済のグローバル化に伴い、**価値観の摩擦や衝突**がこれまで以上に深刻化する状況にあって、単純に議論の優劣を競う、あるいは自らの主張を押し通すのではなく、**多様な価値観どうしてどう折り合いをつけ、社会の暴走を防ぐか**との前提に立った考察と対処が求められます。

そのために知識の伝達にとどまらず、学生たちが対象について自らの考えを持ち、さらに**他者との対話を通じて互いの知見を高め**あえるよう、知と向き合う緊張感を保ちつつ発言しやすい環境作りに努めます。

3-4. 現場重視

専門家やジャーナリストなどの他者によって既に知識化された対象のみならず、**まだ知識化されていない感性情報から自らの言葉を紡ぎだす**姿勢を促すべく、身の回りの出来事に関心を持ち、必要な情報を調べ、現場に足を運び、そこでの体験を通して分析・考察・議論する姿勢を促します。

学生は企画立案、実施に向けての下準備、組織運営、広報、記録集づくり、予算管理、スケジュール管理など、キュレーションに係る**実務を一通り体験**し、活字だけでは得られない現場ならではの知見を得て更に考察を深めます。常に理論と現場の往復作業を繰り返しながら**生きた学び**を得ます。

■ 4. 教育の成果

4-1. ゼミ活動：H-semi

ゼミ生による学内研究発表会。毎週開催。ローテーションで毎週5名が、司会者・発表者1・発表者2・記録写真・レビュー執筆を担当。発表者1は卒論・修論に関する内容、発表者2はその時々に関心ある主題（展覧会レビュー・文献紹介ほか）について発表。Facebookページにて告知およびレビューを掲載。一般の方も見学でき、しばしば外部から美術家・学芸員・教員・街づくり関係者などが見学に来ます。調査研究・発表・討議・場の仕切り・広報・文章記録・写真記録・校正など、このゼミ運営にキュレーショ

ンの基本が凝縮されています。



ゼミ生による研究発表



中崎徹氏（美術家）による飛び入りトーク

時間：16:20～17:30 会場：佐賀大学芸術地域デザイン学部花田研究室

（最下段の回のみ時間：16:20～18:30 会場：CASASAGA）

日程	発表者	発表タイトル
2018.05.10（木）	石原雅也	藝術生活宣言レポ
	崔新宇	欠かせない絵文字
2018.05.24（木）	原田美樹	身体改造の世界
	茶圓彩	現代美術とそれらが示唆するもの～ターナー賞を交えて～
2018.05.31（木）	松木真太郎	現代芸術と地域の関わり —in BEPPU を事例に—
	石原雅也	前衛の落とし子“集団蜘蛛”
2018.06.07（木）	小林愛恵	国東半島芸術祭後の国東市の取り組みについて
	崔新宇	面白い現代アート
2018.06.14（木）	石原雅也	『田中功起 質問する 15—展覧会の「公共性」はどこにあるのか』を読む
	原田美樹	『至上の印象派展 ビュールレ・コレクション』について
2018.06.21（木）	崔新宇	21世紀のアートと展示のニューフェース
	松木真太郎	アートって何？
：	：	：
：	：	：
2019.01.24（木）	石原雅也	集団蜘蛛のユーモア 結
	松木真太郎	国民文化祭・おおいた 2018 をふりかえる
2019.01.31（木）	崔新宇	空間の現実 5
	小林愛恵	殺陣史
2019.02.15（金）	原田美樹	体液を使ったアート
	石原雅也	熊本市現代美術館：バブルラップ
	小林愛恵	ヒーローの正義

4-2. ゼミ活動 : CASASAGA

ゼミ生による地域向けトークイベント実践。佐賀市内の会場でおよそ月 1 回開催。交代で 1 人の担当学生が企画立案、講師選定および交渉、当日の運営アシスタント（受付・記録）の確保を行います。講師との交渉はもちろんのこと、広報にはいつも苦戦します。また講師謝礼・旅費・入場料・ドリンク代・人件費などの予算管理も行いますが、慣れないうちは収支が合わないこともしばしば。「人が集まらない」「お金が合わない」など、このヒヤッとする経験こそが次の学びへと繋がります。



日時	企画者	企画タイトル
	ゲスト講師	
2017.12.15 (金) 19～21 時	石原雅也	自己プロデュース論
	中島頌一郎 (芸能プロダクション SAGANPRO 代表)	
	藤井佳奈 (佐賀大学大学院西洋画専攻/ロリータファッション研究)	
2018.01.24 (水) 19～21 時	崔新宇	異なる芸術を探しに行こう!
	小栗栖まり子 (九州産業大学美術館学芸員)	
	王夢園 (佐賀大学大学院窯芸専攻/中国窓飾り文様と古伊万里焼文様比較研究)	
2018.07.21 (土) 15～17 時	石原雅也	ユーモアの法則
	鈴木淳 (美術家/北九州市在住)	
2018.07.31 (火) 19～21 時	崔新宇	異国での創作: 福岡アジア美術館のアーティスト・イン・レジデンス事業について
	山木裕子 (福岡アジア美術館学芸員)	
2018.08.21 (火) 19～21 時	原田美樹	クリエイティブという意味を考えてみた
	堤俊典 (プロデューサー)	
2018.09.21 (金) 19～21 時	松木真太郎	映画との付き合い方 —映画=誰かの人生—
	原茂樹 (日田シネマテーク・リベルテ支配人)	
2018.10.30 (火) 19～21 時	小林愛恵	災害とアート
	古賀弥生 (任意団体アートサポートふくおか代表)	

4-3. その他：大学カリキュラムでの活動

□「アート in シネマ」(映像作品鑑賞会) ※添付資料 1

第1回 2017年1月11日(水) 第2回 2017年3月2日(木)

ともに時間：18～20時 会場：シアターシエマ 入場料 500円

企画運営… [研究科] 町田聡子、石原雅也、清川千穂、張麗琦

大学院「地域創生キュレーション」での学生自主企画。佐賀市内の映画館にて現代アートの映像作品を上映し、感想や解釈を語り合いました。出品依頼した美術家から報酬と搾取に関する考えを問いただされ、シビアな予算意識を学ぶ機会になりました。



□「バズリアル」(グループ展) ※添付資料 2

会期：2017年2月3日(金)～2月12日(日)

時間：12～17時 会場：TOJIN シェアハウス 入場無料

ゲストアーティスト：富井大裕

出品作家：[研究科] 石原雅也、江頭南有、小島拓朗、嵯峨昌紀、藤井佳奈、町田聡子、山中哲美、[教員] 柳健司、土屋貴哉

大学院生中心。作ることに精一杯で表現者寄りの運営。マネジメント面では課題が残るものの、プロの美術家と作業をともにすることで場の性格と作品とを合わせながら展示を組み立てる手法を学びました。



□「発生の場／Ignition Field」(グループ展) ※添付資料 3

会期：2018年12月7日(金)～12月23日(日) 12～18時 入場無料

会場：アート葉隠、本庄ビル、佐賀大学芸術地域デザイン学部3号館

ゲストアーティスト：阿部浩之、岩井優、オレクトロニカ、宮田君平、山本伸樹

出品作家：[学部] 石丸圭汰、石本陽、岩崎千万理、岡山空知、小林萌、高橋健悟、田中壮一、近石茉凜、藤紘和、中村啓樹、中山幸乃、早田怜佳、原田奈々、久山佳音、前田沙綺、山口純佳、山本準、吉谷彩乃、
[研究科] 江頭南有、[教務補佐員] 八頭司昂、[教員] 近藤恵介、土屋貴哉、柳健司

マネジメント：[学部] 原田美樹、松木真太郎、田原ナツミ、小林愛恵、[研究科] 何義強、黒木由美、和田奈緒、Buarapha Peemphat、藤田香奈子

学部・大学院の開設以来、最大規模のグループ展。テレビや新聞でも紹介され、展示・イベントともに好評を得ました。表現者とマネジメント班とを分け準備を進めるも、ゲストとの調整の緊張感や膨らみがちな企画にマネジメント班の負担は超過気味。スケジュール管理・労務管理の点では反省点が残りますが、この規模の企画には予算が大きく狂うことなく終えた点ではマネジメント学習の一定の成果が見受けられました。



4-4. その他：自主活動

□「パラリアル」(グループ展) ※添付資料 4

会期：2018年7月23日(月)～8月5日(日) 12～20時 入場無料

会場：川崎ビル2F(佐賀市松原4丁目1-1)

ゲストアーティスト：元木孝美

出品作家：[OB] 池田肥前守、小島拓朗、嵯峨昌紀、マチダサトコ、[研究科] 津田まりも、[学部] 松尾匠、田中壮一、石丸圭汰

企画：[研究科] 石原雅也

大学の科目と関係なく、大学院生が自主的にゼロから企画・運営。助成金が獲れない、広報が行き届かない等、課題も残りますが、研究科にとって学生キュレーターを冠する実践として初の試みであり、かつ大学に頼らず自ら発表の機会を切り拓こうとする意欲

的な試みとして、マネジメント学生の自主性の向上が伺えます。



■ 5. 今後の目標

5-1. 短期目標 (2023年までに)

- ・国内のアート業界において認知されるキュレーターの輩出 (1~3名)
- ・卒業生間で仕事をシェアできるネットワークづくり (10~20名)

「芸術」と「地域」の橋渡しを謳う本学部の設立趣旨に沿って、アートマネジメントを社会で実践し、**国内のアート業界でサバイバルできる人を輩出**します。

また卒業生たちが個別に活動するだけでなく、本学部で培った人脈をもとに卒業生どうし相互の繋がりを保ち続け、補完しあいながら仕事に取り組める環境を作るべく、**ゼミ生のネットワーク**を築いていきます。各地の卒業生たちの活躍の点が線となり、線が面となることで、社会における芸術文化全体の底上げを図ります。

5-2. 長期目標 (2027年までに)

- ・海外のアート業界において認知されるキュレーターの輩出 (1~3名)
- ・先輩から後輩へと仕事をシェアできるネットワークづくり (20~30名)

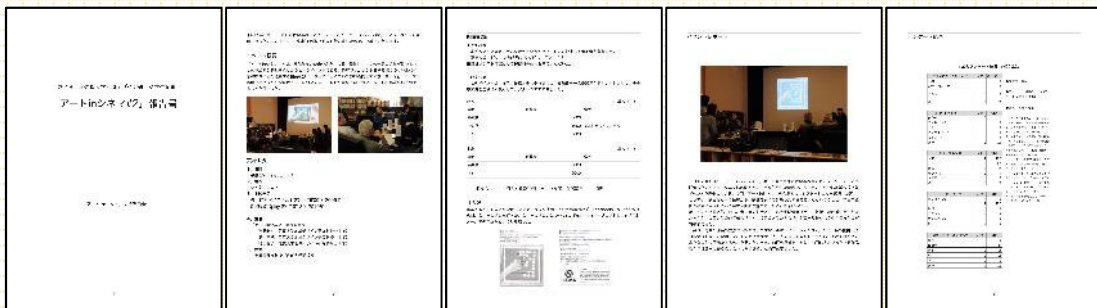
ゼミには海外からの留学生も所属することから、彼らの母国と日本とを結びながら、国をまたいで活躍できる人材を輩出します。グローバル化のもと価値観の摩擦や衝突が世界的に深刻化する状況において、国民国家の枠を超えて次に来るべき社会のビジョンを描き行動できる人材として、**国内の卒業生と海外の卒業生とが協力**しあいながら、芸術・表現を通じて多様な価値観が社会づくりを実現できるよう、国内外のネット

ワークを築いていきます。

また卒業生には上の世代の責任として後輩たちが仕事をしやすい環境作りに努めてもらい、上の代から下の代へと**文化資本・社会資本**を継承していけるようネットワークを築いていきます。

■ 6. 添付資料

資料1 『アート in シネマ #2 報告書』(2017) より



資料2 『バズリアル』 佐賀経済新聞 2017年2月7日(火)



資料3 『発生/場』Ignition Field』 佐賀新聞 2018年12月14日(金)



資料4 『パラリアル』 佐賀新聞 2018年7月27日(金)

佐賀新聞LIVE 佐賀 ▾ 全国・世界 ▾ 暮らし・文化 ▾ 特集・連載 ▾ サガン鳥栖 ▾ おくやみ ▾ 🔍

月額980円(税抜)~&初月無料/現金最大
1.5万円+dポイント最大1万ポイント進呈

ネットナビ

速報

13:56 火災鎮火について
13:10 ショートトラック、復帰の斎藤選手が優勝

13:45 火災発生について 伊万里市大坪町
12:59 飲食店経営者ら容疑を認める

HOME ▾ 佐賀新聞ニュース ▾ 暮らし・文化

宅配申し込み 電子版申し込み

専攻の垣根越え表現 佐賀大生ら「パラリアル」展

2018/7/27

佐賀大の学生やOBら若手作家らによる「パラリアル展」。インスタレーションや映像表現、絵画など専攻の垣根を越えた意欲的な作品が並ぶ。 地域デザイン研究科2年の石原雅也さん(25)が企画。

KEYENCE

全周まるごと高精度
非接触
二次元測定